

鳥取県の栽培漁業新生プラン

//// //// 地域の特産物づくりを目指して //// ////

平成15年10月

水産課
栽培漁業センター
財団法人 鳥取県栽培漁業協会

1. 栽培漁業に対する県民の声(主な意見の抜粋)

1) 沿岸漁業者から・・・

【栽培漁業について】

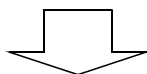
放流効果が下がってきた。
放流効果が見えない地区や魚種もある。
効果がでないものは中止もやむを得ない。
放流効果があっても獲るのは一部の漁師だけ。
放流や漁場管理方法がわからない。
密漁や横流して放流効果が下がっている。
地域に定着する放流対象種を増やして欲しい。
種苗代がこれ以上高くなると放流事業ができない。

【その他の意見・要望】

安定収入を得るために養殖に取り組んでみたい。
地元の特産物を養殖できるようにして欲しい。
イワガキが付かなくなって困っている。
海藻が減って魚も減ってきた。回復したい。

2) 沿岸漁業者以外の県民からも・・・

栽培漁業センターは何をするところかわからない。
養殖を手がけてみたいので指導して欲しい。
休耕田を利用して魚類養殖ができないか。
海の環境が悪化している。原因究明して欲しい。
海藻の生える魚礁や素材を開発したい。協力して欲しい。
栽培漁業センターを見学したい。



2. 今、栽培漁業に課せられた課題は？

1. 放流事業の効果向上
2. 養殖漁業の振興
3. 漁場機能の維持・回復
4. 県民に関われた栽培漁業センターづくり

3. 栽培漁業新生プラン

これからの取り組み内容

1. 放流事業の効果向上のために・・・

放流現場での普及・指導体制づくり(普及・実践活動の開始)
漁場管理体制づくり(栽培グループ・リーダーづくり支援事業)
地域の適性(漁場・要望)にあった新規有望種の導入
(イワガキ・バイ・メガイアワビ・オニオコゼ・メイタガレイ・カサゴなど)
種苗生産経費の低減(生産手法の見直し・省コスト施設の導入)
県外種苗の導入推進(種苗生産連携・分担)

2. 養殖漁業の振興のために・・・

生産者との共同開発による養殖技術の地域定着
(サバ・ヒラメ、クルマエビ、ホンモロコ・カジカ・ドジョウなど)
経営体の創出支援(研修・現地指導・施設や活動費の助成など)
既存経営体の安定化支援(疾病対策・食の安全巡回指導)

3. 漁場機能の維持・回復のために・・・

漁場環境の監視体制づくり(赤潮・貝毒・藻場・水質・底質など)
イワガキ資源回復対策(着生促進技術の確立・実践事業の支援)
藻場の再生対策(再生技術の確立・実践事業の支援・技術普及)

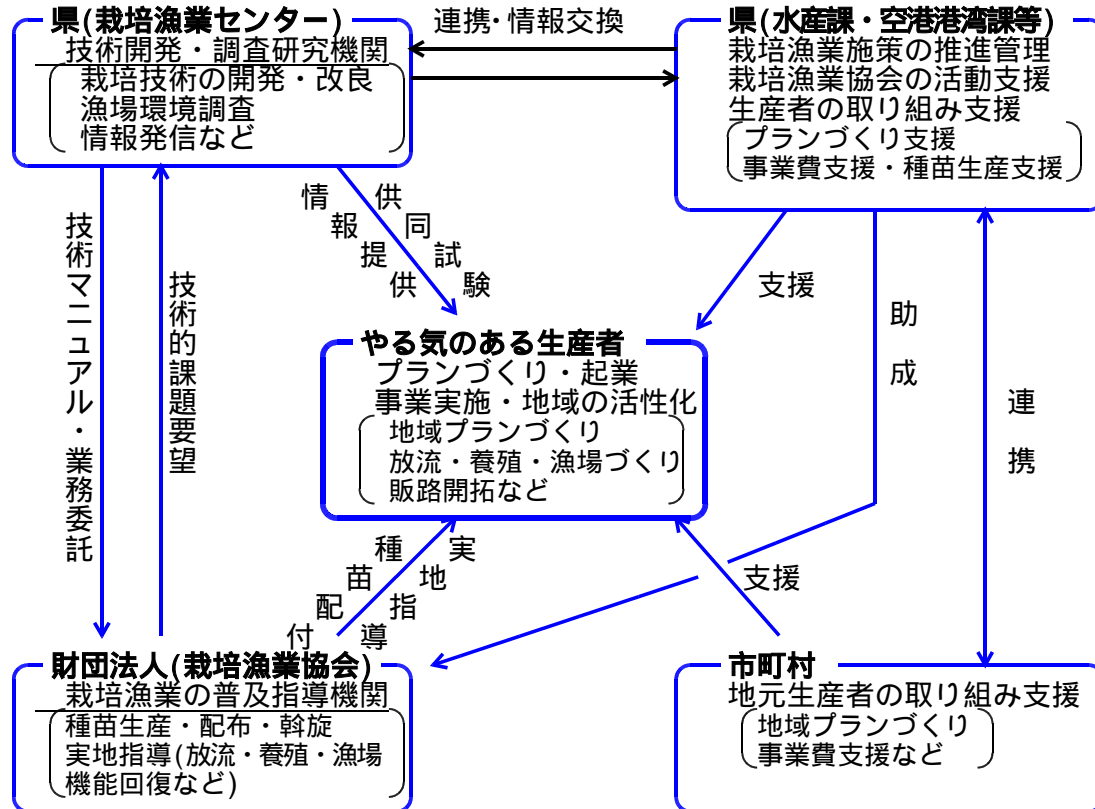
4. 県民に関われた栽培漁業センターづくりのために・・・

情報公開・見学対応(ホームページの開設・見学動線や展示機能充実)
一般県民(農業者・企業など)に対する養殖起業支援
県内企業に対する技術開発支援(藻場造成・魚礁など)

5. これからの取り組みを支える施設づくり

省コスト・省エネ化(安価な種苗を提供するため)
汎用性の向上(多様な生産ニーズに応えるため)
防疫機能の確保(種苗の安定供給のため)
学習・展示機能の充実(開かれた栽培漁業センターとするため)

・ 新生栽培漁業の取り組み体制



・ 軌道修正内容

項目	旧	新
1) 取り組み方針	単独や施設内での生産活動が中心	漁業生産現場での生産者との連携・共同活動を積極的に導入。
2) 組織の役割	栽培漁業協会 種苗生産機関	栽培漁業の普及・指導機関
	栽培漁業センター 技術開発・調査研究・普及指導機関	技術開発・調査研究に専念
3) レパートリー	人工種苗放流	人工種苗放流 養殖漁業 漁場機能の維持・回復
4) 対象魚種	少品種(4種)	多品種 (漁場の適性・地域のニーズに応じて)
5) 種苗の確保	地県産のみ	近県との生産連携・分担を推進